



勝林寺寺報

弥陀成仏のがたは

いも十劫をへたまへり

法身の光輪きはもなし

世の眞實をこひるなり

世界中の社会と経済が大混乱に陥る中、もう

一つの危機がアフリカ大陸で発生し、中東、南アジアを超えて、四千億匹のバッタの大群がインド・パキスタン国境から中国に迫っている

というニュースを見た。四千億もすごいのだろうが、国会のニュースでは“二十年度の歳出は百六十兆円を超える”といつていて。バッタの数よりもすごい百六十兆という数がどんなものなのか、私の頭の計算能力は財布の中身の数万までしかなく、全く実感できない。また、最近のニュースでは理化学研究所のスーパー・コンピュータ「富岳」が、四部門で同時に世界一位を獲得したのだと、この富岳は「二位じゃダメですか」のスペコン「京」(ケイ)の後継機である。この“京”というのは“兆”的の位のようだ。そして、まだまだ上があるのだ

そうだが、どちらにしても私の財布の中身は一萬円どまりである。時間の流れの実感もあいまいで、一億一千万年前の世界最小のかわいい恐竜卵化石が丹波市で発見された。地球の誕生は四十五億年前、日本列島の誕生は三百万年前、来る二〇二三年には、宗祖親鸞聖人の誕生八五〇年、その翌年には立教開宗八〇〇年にあたる。自分の親が死んで何年たつたか、すでにあ

いまいになつてゐる私の頭では、時間と量の正確な実感把握がとても難しい。

阿弥陀様は、既に十劫の昔に成仏されたのだと、ご和讃でうたわれている。阿弥陀様が成仏するというのは、お正信偈のはじめのころにありますように、法藏菩薩という人が四八の願を立て、すべての願を成就（成しとげ）して仏になられたということだ。中でも私たちにとって大切な願が第一八番目の願（本願）、単純に言えば、すべての衆生が往生しなければ、成仏しない」という誓いだった。そしてそれを完全達成されて仏となられたのが十劫の昔だった。この“劫”

というのが“兆”より“京”よりもっと上の位のようだ、宇宙誕生の一三八億年をはるかにしのぐ昔となる。そんなずっと昔に阿弥陀様はすべての衆生が往生しなければ、成仏しない”といふ願いを成し遂げ成仏されている。しかしここでどうしても、疑問が生じてしまう。“すべての衆生”の中に“この私”は入つていてるのだろうか？もちろん“すべて”というのだから“この私”も、だらう。そうすると“この私”は恐竜の卵より、地球の誕生より、宇宙のビッグバンによる。しかし、今この私の生きるこの世界は、コロナウイルスの恐怖に怯え、一人の馬鹿がボタンを押せば吹き飛んでしまう五濁悪世悪世界である。どうしてそんな世界に生きる自分がすくえられない頭で理解できるものでなく、信心の智慧によつてのみ解き明かすことができるのだ。

そして、“二位じゃダメですか”と事業仕分けに挙げられながらも世界一位を獲得したスペコン「京」を百倍超えて世界一位に君臨する演算能力を持つ「富岳」をしても及ばない信心の智慧（仮智）を、私たちは念佛によつて獲得しているのだ。（文責 住職）

永代経の「」案内

日時 七月八日（水）午後七時半より

七月九日（木）午前十時より

内容 お勤め（無量寿經・阿弥陀經）

法話 勝林寺住職

その他 本堂は、椅子の間隔を広くあけてお

ります。

・換気のため、扉は全開にしております。

（寺で用意しております）

・当日、発熱等体調の悪い方は参加を

お控えください。

・今年は、新型コロナウイルス感染予

防のため、他寺院のご住

職のお参りはありません。

二六日（日）みのりを聞く会

一四日（火）濱嘉子宅 二五回忌

一一日（土）立脇昭広宅 一周忌

八日（水）勝林寺 永代経

一〇日（金）兵庫教区 教区会

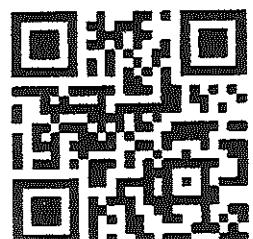
九日（木）勝林寺 永代経

七月 勝林寺 予定



勝林寺のホームページが開設されました。

勝林寺.net
または
shorin-ji.net



門徒専用をクリックして、ログインしてください。
パスワードは、お寺でお尋ねください。

QRコードを読み取るアプリをインストールしてご利用ください。
分かりにくい場合は、寺にご相談ください。

（敬称略）

昨今の問題の一つに、東シナ海に浮かぶ尖閣諸島と竹島問題があります。それらの島々は、もとは日本固有の領土と思われていましたが、最近になって、それは中国のもの、韓国の所有だと主張されることとなり、国際的な紛争になつてきたわけです。このことはかなり深刻な問題になつていくことでしょう。

しかし、これらの問題は、いざれもかつてのアジア・太平洋戦争の敗戦にかかわっていることを、充分に認識すべきでしょう。一九四五年七月、米、英、中、ソの四か国によつて作成された、ポツダム宣言の無条件降伏の内実は、日本の領土は、北海道、本州、四国、九州の四島に限定され、アメリカのルーズベルト大統領によつて、千島列島はソ連(ロシア)に、沖縄諸島は中国に譲ると提条され、中国が辞退したため、アメリカが占領したわけです。その後に返還されたとは名のみで、いまもなおアメリカ軍の駐留が続いて、その事態はいつそう深刻になつてゐることは、周知のことろであります。

その点、先にあげたそれぞれを、日本固有の領土として主張することは当然としても、過去において、そういう事情があつたといふことは、日本国民たるもの厳粛に認識すべきところであつましよう。日本国は、過去において、まことに愚かな戦争をしたものであります。

しかし、これらは的確で、多くの犠牲者が出了しました。私は、一生を得たわけですが、その時に思つたことは、こんなことで戦争に勝てるはずがないといふことでした。

その後、一年間アメリカで研究生活を続けましたが、その時にひそかに思つたことは、こんな広大な領土と豊富な資源をもつてゐるアメリカを相手として、なぜ戦争をはじめたのか、どうして思つたのです。

上に述べたところの、日本の領土をめぐる問題は、まさしく、このような愚かな戦争をはじめ、無条件に降伏したことによるもので、このことは日本に譲ることで、子々孫々に至るまで、長く扱い続けていかなければならない業苦です。

私たちには、この世に生を受けたときから死のカウントダウンが始まっています。信國先生のお言葉は、私たちはみな生老病死の苦しみから逃れることはできない、その現実を生きているのであるとお示しくださっているのではないでしょうか。私は大学で「宗教」「仏教」に関連した授業を担当しています。しかし今まさにいのちを謳歌している若者に「死」について語つても真剣に考へるはずはありません。そして、あるとき話をしている私自身も「死」はわからないことに気が付きました。なぜなら自分自身の身体で「死」を実感したことがないからです。なかなかこの空虚な感覚を払拭できないでいましたが、私自身が年を重ねていくにつれて「生老病死に生きるもののが根本の問題があるのだ」ということが、切実な問題として迫つてくるようになりました。仏教で説かれるところの「生死」は、二元的・対極的なものとして語られる教えではないということです。そのことを、お釈迦さまは、老・病・死に生きるもののが根本の問題があるとみられたのです。

信國先生があらわされた「人間は死を抱いて生まれ、死をかかえて成長する。死はこの身において成熟する。(中略) 死はこの身の老いに従つて、この身の内に成熟し、病を通してこの身の内から現実に近寄る。老・病・死する身として私どもは生まれ、かつ生きているのである」は、正に現実の問題として「いのち」を考える必要性をお示しくださつてゐるのだ、と私は受け止めました。(「月々の言葉」より)



部隊には、一丁の機関銃もなく、その大砲は、明治時代に製造されたもので、飛行機を撃つようにはできていません。何発撃つてもあるはずはありません。逆にアメリカ空軍の機銃掃射は、こんなことで戦争に勝てるはずがないといふことでした。

その後、月に一回普段着で本堂に集まつて、正信偈のお勤めをして住職の短めの法話を聞いてお念佛し、終わった後は世間話や内輪話に花を咲かせる気楽な「みのりを聞く会」からの再スタートです。六月二十六日の夜、住職、坊守、若院を含めて十名で開催しました。いつもお参りしてくださる方をいつものようにお迎えしただけなのですが、お顔を見た瞬間恥ずかしいような気持ちが私の心をよぎりました。その気持ちに気づき戸惑いを感じる間もなく、いつもの他愛ないおしゃべりが始まつた。いつもの冗談に大笑いしたのですが(笑)そういうえば、以前同じ感覚を経験したことがあるなど思い出します。それは、子どもが大学や仕事で我が家を離れ、しばらくぶりに帰つてきたときの感覚です。駅やバスターミナルに迎えに行き、ようやくその姿が見えたのを出迎えるときのあの感覚です。久しぶりに会えるのがうれしい、でもそれをストレートに出す勇気もないしその気持ちを悟られるのもちよつと恥ずかしい・・どんな顔で会おうかなーそんな感じです。毎月、いつものように会つていると感じることのなかつた感覚を、コロナの影響で「初めての三か月ぶりのみのりを聞く会」で感じさせてもらいました。

さて、次は、八日九日にお勤めする「永代經」です。内陣での三密を避けるため、お寺様のお参りは辞退しておりますので、住職、坊守、若院、次男の四人でお勤めいたします。「これも「初めての永代經」です。今度は、どんな感覚を味わえるのか楽しみです。(文責 坊守)

人間は死を抱いて 生まれ 死を抱えて 成長する 信國 淳

とすん

緊急事態宣言が解除になり、新しい生活様式での小規模の集会も認められるようになりました。地域での会議やカフェも再開し、出石を訪れる観光の方も週を追うごとに増えています。

勝林寺も「安心・安全」を心がけながら、少しずつ動き始めます。最初は、月に一回普段着で本堂に集まつて、正信偈のお勤めをして住職の短めの法話を聞いてお念佛し、終わった後は世間話や内輪話に花を咲かせる気楽な「みのりを聞く会」からの再スタートです。六月二十六日の夜、住職、坊守、若院を含めて十名で開催しました。いつもお参りしてくださる方をいつものようにお迎えしただけなのですが、お顔を見た瞬間恥ずかしいような気持ちが私の心をよぎりました。その気持ちに気づき戸惑いを感じる間もなく、いつもの他愛ないおしゃべりが始まつた。いつもの冗談に大笑いしたのですが(笑)そういうえば、以前同じ感覚を経験したことがあるなど思い出します。それは、子どもが大学や仕事で我が家を離れ、しばらくぶりに帰つてきたときの感覚です。駅やバスターミナルに迎えに行き、ようやくその姿が見えたのを出迎えるときのあの感覚です。久しぶりに会えるのがうれしい、でもそれをストレートに出す勇気もないしその気持ちを悟られるのもちよつと恥ずかしい・・どんな顔で会おうかなーそんな感じです。毎月、いつものように会つていると感じることのなかつた感覚を、コロナの影響で「初めての三か月ぶりのみのりを聞く会」で感じさせてもらいました。

さて、次は、八日九日にお勤めする「永代經」です。内陣での三密を避けるため、お寺様のお参りは辞退しておりますので、住職、坊守、若院、次男の四人でお勤めいたします。「これも「初めての永代經」です。今度は、どんな感覚を味わえるのか楽しみです。(文責 坊守)

私はかつて大学時代、十八歳にして徴兵され、北海道の旭川部隊に入隊しました。まもなくア

勝林寺 0796-52-3083 緊急時 090-3708-5424